

今月の
テーマ

「パンドラの箱」を開ける…!

物語の内容は(あらすじ)

人間好きの「プロメテウス」は人間の待遇を変えるように、人間嫌いの最高神「ゼウス」に訴え続けていたが、断られ続けていました。そこで、「プロメテウス」は「ゼウス」を騙し、人間に肉を与えました。騙されたことを知った「ゼウス」は怒って、人間から火を取り上げてしまいました。人間は火を失ったことにより、肉を食べることも火で獣から身を守ることでもできなくなってしまいました。嘆き悲しんだ「プロメテウス」は、その火を盗み出して人間に与え、さらには人間に知識や技術も教えました。その結果、人間はどんどん進化し武器を持ち戦争もするようになってしまいました。ついに、ゼウスを本気で怒らせてしまい、「プロメテウス」は「権力の神クラトス」「暴力の神ビアー」によってコーカサス山に「はりつけ」にされ、この刑は3万年もの間続きました。しかし、「ゼウス」の怒りはそれだけでは収まらず、人間に罰を与えるためにゼウスの子「ヘパイストス」に人間の女性の像を作らせ、その泥で作られた美しい人間の

女性の像に命を吹き込み、人間界を混乱させようとたくらみます。この美しい人間の女性は、男しかいなかった人類に送り込まれた初の女性でした。「パンドラ」と名付けられ、これが、「ゼウス」のパンドラの箱作戦だったのです。「ゼウス」の命を受けた伝令神「ヘルメス」は、「プロメテウス」の弟「エピメテウス」に、パンドラを送り込みました。「絶対に開けてはいけない」1個の箱を持たせて…。この企てを予測していた「プロメテウス」は、弟「エピメテウス」に「ゼウス」からの贈り物は受け取るな!と忠告していたのに、パンドラがあまりに美しく、「エピメテウス」は一目惚れして結婚をしてしまいました。その後、「パンドラ」は伝令神「ヘルメス」から渡されていた箱を好奇心に負け覗いてみようとして開けた瞬間、出てきたのは悲しみ、裏切り、不安、恨み、争い、嫉妬、後悔、病、死、貧困……ネガティブな気持ちや想いの種である災厄がまき散らされてしまいました。「パンドラ」は急いで箱を開けましたが、中に残ったのは希望(エルピス)だけでした。

Vol. 193

知恵袋

生活

生活に
何かと役立つ
連載コラム

つぶやきがんちゃん



つぶやきがんちゃん
齋藤 廣勝
(さいとう ひろかつ)
株式会社トータルライフサポート
代表取締役

- ・CFP®サーティファイドファイナンシャルプランナー
- ・1級ファイナンシャルプランニング技能士
- ・日本商工会議所 年金・退職金等認定講師
- ・住宅ローンアドバイザー

なぜ、ギリシャ神話?

今月は「パンドラの箱」を開ける「ガテーマ」だ。誰でも一度は聞いたことあると思うが、「ギリシャ神話」に出てくる物語だ。私は、ギリシャ神話を含む世界の童話や、日本の民話・昔ばなしなどが大好きだ。それらの物語には、作者の伝えたい想いや教えはもとより、それを読み聞かせする人の想いも重なっている。それは教訓だったり、戒めだったり、見る人、聞く人に様々な影響をもたらしているはずだ。その影響は、それぞれが「どう解釈するか」によって大きく異なったりもする。私の解釈もそうか?!?この度の展開は、お得意の「脱線」から始まる感「がぬぐえないし、こじつけ感も否めないが、またか」と笑って付き合ってほしい。「パンドラの箱」を開けることへの解釈をどう見るかが、今回の解説、いや「こじつけ」とも言えるかもしれないが、私なりの勝手な解釈で皆様の暮らしの将来展望につなげることを願いたい。

ギリシャ神話に見る「パンドラの箱」とは

「パンドラの箱」の解説は様々であり、なぞも多いが、「ギリシャ神話」であることには他ならない。多くのギリシャ神話は、巨匠ルーベンス(ピーテル・パウル・ルーベンス)の絵画に見ることができ、ギリシャ神話とルーベンスの名画は、切っても切り離せない。何度もアニメ化や映画化が繰り返されてきた名作「フランダーズの犬」の中にも、主人公ネロが憧れた「聖母マリア被昇天」「キリスト降架」の絵が度々登場していることをご存じの方もいるだろう。

保険と暮らしの相談センター

家計の見直ししませんか?

近頃の物価高で様々なものの値段があがっている今こそ、家計を“総点検”してみませんか?
弊社では家計収支の点検・見直しアドバイス~収支計画(キャッシュフロー表)の作成までお手伝いしております。
まずはお気軽にご相談を!

お気軽にご相談ください。

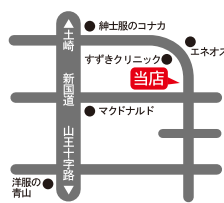
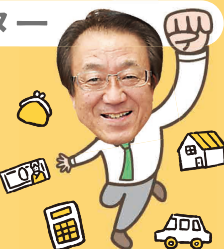
株式会社
total life support 募集代理店 **トータルライフサポート**

〒010-0916 秋田市泉北3丁目17-22
● 営業時間 / 9:30~18:00(土・日・祝日は9:30~17:00)
● 定休日 / 水曜日

TEL 018-827-7611 詳細は
ホームページでも
ご覧いただけます。

FAX 018-827-7610

URL <https://tls-akita.co.jp>



う…。そのルーベンスによって描かれた「縛られたプロメテウス」には、「ゼウス」によって罰を受ける「プロメテウス」の様子が描かれている。また、星座が好きな方は、ギリシャ神話の登場人物が多く存在することも「存じだろっ」。ギリシャ神話は、日本の童話に多く見られるような「めでたし、めでたし」とは必ずしもならない。中には残酷な表現も登場する。この度のテーマである「パンドラの箱」にしても、「パンドラの箱」は、「決して開けてはならないもの」、「災いをもたらすもの」の例えとして使われているが、その実は「パンドラの箱」は神ゼウスが人間へ送った罰だという。今回は、その開けてはならない罰と災いを開けようというのだから何とも恐れ多いことではあるが「生活知恵袋」に免じておゆるしあれ。◆合掌

■それぞれの「パンドラの箱」

私たちが生きていく上で、現在はもとより中長期的な将来への展望を持たなければならぬ。また、起こりうる傷病や災害といったリスクを想定した備えもしなければならぬ。これまで、見える化の必要性を解説してきた三大資金（教育資金・住宅資金・老後資金）、さらには交通事故や火災・自然災害（水害・風災・雪災）、家族の健康などのリスクも検証し、見える化をする必要がある。ゼウスがパンドラに持たせた箱の中には、ありとあらゆる災厄（疫病・悲嘆・欠乏・犯罪など）が入っていたわけだが、パンドラは開けてはいけないものを開けて災いをまき散らしてしまった。今の人間社会

に存在する様々な災いはパンドラが箱を開けたせいなどではなく、誰にでもどこにでも存在している問題だ。身近に存在している問題でありながら、また迫っている問題であるにも拘らず頭を化されていないケースが実に多い。ならば、「見えていないもの」を「見える化する」は、ある意味「パンドラの箱」を開けることによって見えてくるとも言える。パンドラが開けた箱の中には、「夜の女神」や「争いの女神」など様々な災厄の女神が入っていた。女性を厄災扱いするとは何ともけしからん話で、神話を創った方において、明治から昭和にかけて活躍した作家、思想家、女性解放運動の先駆者として有名な「平塚らいてう」いわく、「元始、女性は太陽であったと」。ここでまた、それぞれが持つ「パンドラの箱」をこじつけてみよう。

それぞれの持つパンドラの箱の中身に違いはあるものの、「家族の健康リスク」、「自然災害などのリスク」、「将来の必要資金（住宅・教育・老後）」、「就業不能リスク」、「家計収支のバランス」などなど厄災ではないものの、あえて開けなければ見えてこない、潜在的に起こりうるリスクを確認する必要がある。そして、これが私流に考えたパンドラの箱を開けることなのである。

■あまのじゃくな人間

「開けるな」と言われれば言われるほど開けたくなる。「決して見えてはいけませんよ」と言われると、なおさら見たくなる。他人から「してはいけない」と言われた

場合、かなりの確率でそれを破ってしまうのも人の常で、あまのじゃくな私も例外ではない。ゼウスがパンドラに渡した箱も、決して開けてはならないと言われたが、パンドラは好奇心からますます開けてみたくなり、その衝動を抑えることができなかった。「鶴の恩返し」にしても、おじいさんは、はたを織る鶴を覗いてしまっし、浦島太郎も開けてはならない「玉手箱」を開けてしまっ。先にも書いたように、日本の童話や民話の落ちは「めでたし、めでたし」で終わることが多いが、浦島太郎だけは謎だらけだ。「パンドラの箱」は、ゼウスが人間を罰するために、「パンドラが開けることを確信」して渡したもので、まさに陰謀であった。乙姫が浦島太郎に、開けてはいけない「玉手箱」を渡したことは何の意図があったのだろうか？ 浦島太郎に込められたメッセージを強いて言えば、「いじめはいけませんよ」、「善い行いをしたら、恩が返ってきますよ」、「助けてもらったからお礼をするものですよ」、「約束を破ってはいけませんよ」という教えだろうか？？

今回の「パンドラの箱を開けよう」も、将来の見える化である「パンドラの箱」は「決して開けてはいけませんよ」と言えば開けてもらえらるだろうか？？ 私、ゼウスに代わって皆さんの所にパンドラの箱を届けようと思います。その中には、希望（エルピス）も入っていますので、是非開けてください。いや、決して開けてはなりません！

■開けなければならないパンドラの箱

今回、生活知恵袋での「パンドラの箱」は、開けなければならないものとし位置付けている。開けることによって見えてくる課題や問題点、そして展望・希望、どれもが将来を設計する上で不可欠な情報だ。人はとく問題がある程度分かっても、都合の悪いことには、あえて目を背けてしまう傾向にある。それは、単なる先送りになってしまうばかりか、事を大きくしてしまう可能性が高い。ならば、箱は開けなければならぬのだが、さて、皆さんは開けることができるだろうか？？「問題・課題を先に知れば、それへの対策も立てられる」と考えるべきで、恐れずに「パンドラの箱」を開ければ、それは「災厄」ではなく、希望を見出すことにつながるはずだ。

■箱に残された希望（エルピス）とは

パンドラが慌てて閉じた箱の中から、「開けてください、私は希望（エルピス）です」という声が聞こえてきた。その声を信じて箱を開けてみると「希望」は言いまして、私は、これから人間と共にいて、災厄から彼らを救います。しかし、私（希望）は人間が気づいてくれないと、支えてあげることができません。だから、私の事を忘れないで、いつでも思い出してくださいと…。私たちが生きる糧である「希望」とは、どれほど困難な状況にあっても、「未来に対する可能性を信じる心」そのものなわけかもしれない。そして、今回のテーマは、これまでの「見える化」の締めとなる希望である。